

新潟西部地域 「新之助」生育情報 No.4

令和7年6月30日
巻農業普及指導センター

中干しは 田面に小ヒビが入る程度で終了し、 飽水管理へ移行！

【6月30日の生育データ(指標値比較)】

草丈「長い」、茎数「少」、葉数「並」、葉色「やや濃い」

区分	調査地点	移植日	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		主幹葉数(L)		葉色(SPAD)	
			本年値	指標比%	本年値	指標比%	本年値	指標差L	本年値	指標差
分施	岩室(普及)	5月16日	50	122	682	114	10.0	0.0	35.9	-1.1
全量基肥	巻	5月16日	50	122	601	100	10.2	0.2	37.0	0.0
	岩室	5月8日	60	146	424	71	10.0	0.0	40.6	3.6
	潟東	5月13日	51	124	524	87	10.1	0.1	42.2	5.2
	中之口	5月12日	50	122	496	83	10.2	0.2	36.7	-0.3
	黒埼	5月11日	48	117	361	60	9.4	-0.6	37.2	0.2
	西川	5月18日	49	120	445	74	9.6	-0.4	40.4	3.4
	にいがた西	5月11日	51	124	551	92	10.2	0.2	35.6	-1.4
全体平均		5月13日	51	125	511	85	10.0	0.0	38.2	1.2
指標値		5月15日	41		600		10.0		37.0	
近年値		5月13日	40		546		9.7		36.9	

※調査地点:JA新潟かがやき「越後中央」新之助研究会、JA新潟かがやき「みらい」新之助栽培研究会、普及センター気象感応ほ調査データ

※近年値はH29～R6までの平均値

【管理ポイント】

- うわ根の発生促進や根の健全化を図るため、**中干しは干し過ぎないように、田面に小ヒビが入る程度で終了する。遅くとも出穂期の1か月前(7月10日頃)までには終了し、その後、浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行する。**
- 曇りや雨の多い天候になると、いもち病に感染しやすくなる。
ほ場をよく観察し、**葉いもちの発病を確認した場合は、液剤または粉剤で追加防除**を行う。
- **水面施用粒剤での穂いもちの防除は、出穂20日前頃に遅れずに実施する。**
- 「新之助」は紋枯病の被害を受けやすいので、発病状況に留意する。特に前年多発したほ場は伝染源が多いので、適期に防除する。
- 出穂したイネ科雑草はカメムシ類の増殖地となるので、畦畔等の草刈りや水田内雑草(特にノビエ、ホタルイ)の除去を徹底する。

(次回調査は7月10日)